

一

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 明らかな誤字、語句・接続語・助詞等の誤用はそのつどマイナス1点。
- ③ 正答の要素を含んでも説明の方向性が全くズレていると判断される答案は0点としてよい。

※ 問一・問二・問六は解答例のみ正解とする。

問三 (1)

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点7点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A ①

B

A ②

C

宗教や学問に関する専門的な書籍は 主に文庫で收藏・管理され、通俗的な書籍は 本屋や貸本屋で取り扱われた。

■字数…五〇字 二十四字以下のものは全体不可（0点）

■要素A 「①宗教や学問に関する専門的な書籍は―②通俗的な書籍は―③点

- ・答案から「専門的な書籍」と「通俗的な書籍」の対比が読み取れれば可。
- ・対比が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B 「主に文庫で收藏・管理され」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「本屋や貸本屋で取り扱われた」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 書籍の存在の仕方を説明した答案の文末表現として妥当であると判断できれば広く許容して可。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問三 (2)

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点7点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A ①

B

A ②

C

専門的な書籍は 学校等の図書室・図書館で管理され、通俗的な書籍は 小規模な小売店や貸本屋で取り扱われた。

■字数…五〇字 二十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 「①専門的な書籍は―②通俗的な書籍は」…

- ・答案から「専門的な書籍」と「通俗的な書籍」の対比が読み取れば可。
- ・対比が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B 「学校等の図書室・図書館で管理され」…

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「小規模な小売店や貸本屋で取り扱われた」…

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 書籍の存在の仕方を説明した答案の文末表現として妥当であると判断できれば広く許容して可。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問四

■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

基準 配点15点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A①

B

C

D

高度経済成長長期前期には、海外の技術情報入手や学術研究のための専門図書館で文献を扱える。国際標準の

A②

E

F

司書が養成されたが、後期になると公共図書館が貸出サービスを重視し、専門性を持つ司書は必要とされなくなつた。

■字数…一〇〇字 四十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 「①高度経済成長長期前期―②後期になると」…2点

- ・答案の中に「前期」と「後期」という語を使用した対比があれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B 「海外の技術情報入手や学術研究のため」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「技術情報入手」と「学術研究」のいずれか一つしか示されていない場合は1点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「専門図書館で文献を扱える」…2点

- ・「専門的な文献を扱える」でも可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「国際標準の司書が養成された」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「公共図書館が貸出サービスを重視し」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「貸出」を欠く場合は2点
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「専門性を持つ司書は必要とされなくなつた」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 図書館の司書の変質を説明した答案の文末表現として妥当であると判断できれば広く許容して可。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

問五

■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

基準 配点5点
1点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A
都道府県立図書館と傘下の市町村立図書館との相互補完的關係の中で、利用者の生活に見合う 図書の分類・陳列、貸出システムのセルフ方式化、開館時間や併設施設の充実を図り、システムがネットワーク化された 図書館。
D E B C

■字数…一〇〇字 四十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 「都道府県立図書館と傘下の市町村立図書館との相互補完的な關係の中で」…3点

- ・「傘下の」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B 「利用者の生活に見合う」…2点

- ・「生活」は「ライフスタイル」でも可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「図書の分類・陳列」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「貸出システムのセルフ方式化」…2点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「開館時間や併設施設の充実」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・「開館時間」と「併設施設」のいずれか一つを欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「システムがネットワーク化された図書館」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 文末表現は「：(ような) 図書館」という形が原則。但し、図書館の在り方を説明した答案の文

末表現として妥当であると判断できれば広く許容して可。不適切であると判断される場合はマイナス1点。

二 (うたたね)

問一 ア 配点：8点

■心情説明の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現「く心情・気持ち」など・句読点は不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a b c

男君の訪れが途絶えがちで、今はもう二人の仲も縁が切れてしまうのだろうと思うようになった

d

心細い心情。

■要素 a 男君の訪れが途絶えがちで：2点

・ 仲を悲観することになった原因にあたる内容。

男君が「訪れが途絶えがち」「最近は来なくなってしまった」など。

■要素 b 今はもう：縁が切れてしまうのだろうと思うようになった：2点

・ 「かくにこそ」の内容。恋（二人の関係）の終わりの予感を意味する語。

■要素 c 二人の仲も：2点

・ 「世」が、世の中ではなく、二人の仲であることが読み取れていれば可。

■要素 d 心細い心情：2点

・ 「心細い・不安・悲しい」など。①点

・ 文末が「心情・気持ち・思っている」など。①点

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問一 ウ 配点：8点

■心情説明の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現「く心情・気持ち」など・句読点は不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a b c

男君からの情のこまやかな見事な手紙を見ると、数日來の訪れのないつらさが全て忘れられる

d

気持ちができるのも、人から見ると体裁が悪いと自嘲する心情。

■要素 a 男君からの情のこまやかな見事な手紙を見ると：2点

・ きっかけが「男君（①点）」からの「手紙（情のこまやかな言葉）（①点）」であることがわかれば可。

■要素b 数日來の訪れのないつらさが：2点

・「数日來のつらさ」①点

・つらさの中身が、「男君（恋人）訪れが途絶えがち・しばらく来なかったこと」①点

■要素c 全て忘れられる気持ちができるのも：2点

・「全て」①点 「つらさを（忘れてしまう・忘れられる）」①点

■要素d 人から見ると体裁が悪いと自嘲する心情。：2点

・「体裁が悪い・みっともない・見苦しい」①点」と「思っている・心情」①点

・自分で自分に苦笑いするような自嘲するニュアンスであること

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問二 配点：10点

■現代語訳の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a

b

c

つらい宮仕え先の北山でのことは見事な紅葉の景色を見ることができ、いっそう忘れられたのである

d

うか、すぐに立ち去ることもできない。

■要素a つらい宮仕え先の北山でのことは：2点

・「つらい」①点 「宮仕え先の北山でのこと（具体的には男君との恋愛）」①点

■要素b 見事な紅葉の景色を見ることができ：2点

・法金剛院の紅葉や鳶の秋景色を見ることができ。「秋景色・紅葉」を「見る」で完答②点

■要素c いっそう忘れられたのであろうか：3点

・「いっそう・ますます」①点

・自発（可能）＋完了①点 「られた」

・推量＋疑問①点 「だろうか」

■要素d すぐに立ち去ることもできない：3点

・「急には・すぐには」①点 「早く」は厳密には異なるが可とする。

・「立ち去る・あとにする・出発する・立ち上がる」①点

・不可能①点

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問二 配点：12点

■現代語訳の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a b c

朝を知らせる鐘の音が、 たった今自分の命を終わらせるような気がして、正気を失った状態で

d e

起きて別れた際の袖を濡らす涙は、 いっそう恨みがましくて

■要素a 朝を知らせる鐘の音が：2点

・命を限るものの主体として「鐘の音」 「朝を知らせる」などは無くても不問。

■要素b たった今自分の命を終わらせるような気がして：3点

・「たった今・現在・今すぐ・すぐに・直ちに」①点

・「自分の命を」＋「終わらせる」＝「死んでしまう」なども可 ①点

・「気がする」 ①点

■要素c 正気を失った状態で：2点

・「我を失って・正気を失って・うわの空で・茫然自失で」など

■要素d 起きて別れた際の袖を濡らす涙は：3点

・完了①点 別れ「た」

・「袖の露」が（別れの悲しみの）「涙」であることが分かれば可②点

■要素e いっそう恨みがましくて：2点

・「ますます・いっそう」①点

・「恨みがましい・愚痴っぽい」など①点

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問三 (A) 配点：10点

■和歌の現代語訳の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a
人知れず愛を誓ったあの人の言葉を、嵐よ吹き散らせとは願わなかったのに、誓いは破られ、
d

あの人の訪れは途絶えがちになってしまったことだ。

■要素 a 人知れず愛を誓ったあの人の言葉を…3点

- ・「人知れず・秘かに・人に知られず」など①点
- ・「愛を誓った・深い仲になった」など①点
- ・あの人(男君)との「言葉・約束」①点。

■要素 b 嵐よ吹き散らせとは願わなかったのに…3点

- ・「嵐が吹き散らせ」①点。要素 a・b の続き方で誓いの言葉が散らされることが伝わること。
- ・「思う・願う」+打消+過去+逆接 のうち二個で①点、四個で②点

■要素 c 誓いは破られ…2点

- ・「誓い・約束」が履行されなかった

■要素 d あの人の訪れは途絶えがちになってしまったことだ…2点

- ・「男君が訪れなくなってしまった」「恋が終わりに近づいている」など

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問三 (B) 配点…12点

■和歌の現代語訳の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末・句読点は不問。

■模範解答 *各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

a
b
c
d
e
これがまさに古歌に言う「問ふにつらさの」なのだろうか。訪れが途絶えがちなあの人からの手

紙のこまやかな言葉の数々にかえってつらさが湧いてきて涙をいっそう添える筆跡よ。

■要素 a これがまさに…だろうか…3点

- ・「これが…だろうか」 これ+推量+疑問 各①点

■要素 b 古歌に言う「問ふにつらさの」…2点

- ・「問ふにつらさの」または「古歌の」

・または古歌の内容そのもの（放っておかれたならば忘れてもいられるのに、手紙で問い慰められてかえって恋のつらさを思い出してしまったことよ）を解答してもよい。

■要素c 訪れが途絶えがちなあの人からの手紙のこまやかな言葉の数々に…2点

・「男君からの」①点 ・「言葉の数々」①点

■要素d かえってつらさが湧いてきて…3点

・「なまじっか」手紙をもらって「かえって・むしろ」 ↓「なかなか」の訳語①点
・「つらさ」②点

■要素e 涙をいっそう添える筆跡よ…2点

・「涙が出てしまう」①点 「筆跡・文字」①点

■その他…余計な言葉があっても不問

問一 a よりて(よつて) (2点)

b いかん(いかなど) (2点)

c およそ (2点)

※ カタカナ書きは × 0点

※ aは「よつて」でも「いかなど」は大きく。保音の「つ」は△-1点
どちかが微妙なときは○とする。

問二 其の色(は)青蒼にして、差常の蜂より(も)大なるのみ。 (6点)

a 了 了

b

了

※ aの部分点、bの部分3点の配点とする。

※ すべてひらがなにしてはるものは、実答ならはる△・bも△1点与える。

※ 「そのいろはせいさうにして、ややつねのいろはよりだいたなるのみ」

※ 「その」「やね」など、部分的にはひらがなにしてあつても可。

a, 「其色青蒼」の読み……… 3点

※ 「其の色青蒼にして」 } すべて○

「其の色は青蒼にして」

「その色は青蒼にて」

※ 「其の色(は)青蒼」 } すべて△1点

「其の色は青蒼なり」

「其の色は青蒼といて」

「其の色は青蒼にして」

b, 「差大於常蜂耳」の読み……… 3点

※ 返り点を誤りまらさるるものは × 0点

※ 「た」を奪ひてはるもの } すべて○

「耳」を「のみ」にしてはるもの

※ 「差常の蜂より(も)大なるのみ」 } すべて○

「や常の蜂より(も)大なるのみ」

「差常の蜂より(も)大なるのみ」

「差常の蜂より(も)大なるのみ」

※ 文末に「と」「(と)」が「あつても可。有異は不脱」。

問三 蜂の玉(女王蜂)の生んだ子(女王蜂)は、³それと女王(女王蜂)となり、

⁴毎年集団を分けてもとの巣から出て行く。(ウチ)

2. 「玉の子を冬く復た玉と為り」の語... 3点

※ 「玉の子」は「玉」に(注)アリ。「玉」のまはす△-1点

「蜂の玉が生んだ子は」 } なぞで 2点

「女王蜂が生んだ子は」

「女王蜂の子(と注)は」

※ 「冬く復た玉と為り」の「玉」は「玉の子」を言いかたで「玉」が

そのままで可。「冬く」の意は「か」が「か」も「は」も

「すばてまたそれと女王となり」 } なぞで 1点

「すばてかまた女王蜂になり」

「全員がそれと女王蜂になり」

6. 「教どとに其の族を分けて去子」の語... 4点

※ 「歳ごと」の語... 1点

「毎年」 } なぞで 1点

「一年がと」

「年ごと」で可とする。

※ 「其の族を分けて」の語... 1点

「集団を分けて」

「一族を分けて」

「分家して」 } なぞで 1点

「別の一族をつくり」

「別の集団を作って」

※ 「去子」の語... 2点

※ どこから「去子」かを補う。補いが「去」も「は」△-1点

「もとの巣から出て行く」

「元の群れから去りゆく」 } なぞで 2点

「育った巣から去子」

「巣から出て行く」で可とする。

「去りゆく」 } は△ 1点

「出て行く」

問題 其の玉を失ふ(お)ば、則ち潰れして得通す(か)らず。(6点)

a a z b o s c z

* a. b. c. 其中どれ二点をその配点とする。
* ずす(か)らず(お)か(存)に(し)る(も)の(は)、定評な(お)り、各1点与える。

- a 「その(お)ろ(を)を(失)へ(お)ば」
- b 「す(お)ろ(を)を(失)へ(お)ば」
- c 「せ(お)ろ(を)を(失)へ(お)ば」
- * 「その」など、部分的にはむ(か)存に(し)る(も)と(す)可。
- * 「失(お)ろ(を)を(失)へ(お)ば」、歴史的な(お)ろ(を)を(失)へ(お)ばは△-1点

a. 「失其玉」の読み --- 2点

* bの「則ち」の読み --- 「失(お)ろ(を)を(失)へ(お)ば」は△-1点、
「失(お)ろ(を)を(失)へ(お)ば」は△-1点

* 「失(お)ろ(を)を(失)へ(お)ば」は△-1点

* 「其の玉を失へ(お)ば」 } △-2点

* 「その玉を失へ(お)ば」 } △-2点

* 「其の玉を失ふ(お)ば」は△-1点、と(す)る。

* 「その玉を失ふ(お)ば」

* 「其の玉を失ふ(お)ば」 } △-2点

b. 「則ち潰れ」の読み --- 2点

* 「則ち(か)存(お)は(し)る」 --- 1点

* 「潰れ(お)し(て)」 --- 1点

* 「潰れ(お)し(て)」を(変)動(詞)に(読)ん(で)い(る)は△-1点

* 「潰れ(お)し(て)」 } △-1点

* 「潰れ(お)し(て)」 } △-1点

c. 「不可得通」の読み --- 2点

* 「得通」を(変)動(詞)に(読)ん(で)い(る)点 --- 1点

* 「不可」を「(か)らず(お)か(存)に(し)る(も)」と(読)ん(で)い(る)点 --- 1点

* 「得通(お)す(か)らず(お)か(存)に(し)る(も)」は△-1点

問五 蜂蜜を採取す子にあたり、

a 子

採り過ぎで蜂を飢えさせたり、

b 子

採り過ぎで蜂を怠けさせたりすることなく、

c 子

適度に採取すれば、ということ。(8点)

d 子

※「十一」にて税する、この説明にしては、おかし × 0点

※ 第一段落の「蜂」についての説明でなく、おかし × 2点

a, d 「た」も取子に中た子を得れば、そのものの説明で、--- 4点

※ c は、第一段落の「凡そ其の蜜を採取す」に相当する、--- 2点

「蜂蜜を採取す子にあたりて」

「蜂の蜜を採るときは」

「蜂の巣から蜜を採取する際には」

} など 2点

※ 「文」の指すものを間違えて、おかし p.c.d もおかしと子と思われる。

※ a は「中た子を得れば」の言わんとする子ことを決まり、--- 2点

「適度に採取すれば」

「適当(適度)であれば」

「適量であれば」

「適切な量であれば」

「過不足がないようにすれば」

「適度に採取するのには」

「適切な量を採取するのは」

} など 2点

} 2点

※ c で「何かにすぎた」という解釈で「おかし」

「適量にすぎた」

「過不足がないようにすれば」

} など × 2点

b, 「多くすばからず。多ければ取りすぎ、少なすぎれば取りすぎ」の要領、--- 2点

※ 「採り過ぎないように」の要領、--- 1点

「蜂を飢えさせない」の要領、--- 1点

※ 解答例は c で「〜することなく」「〜ないように」とおかしの子、b で

「～ないように」の言い方「方としないが、bにもあってもよい。」

※ 「採り過ぎて蜂を飢えさせた(せず)」

「多(取)って蜂をうせせ、数を小やせさせた」

「取りすぎ」と蜂を飢えてしまうし」

「取りすぎ」と蜂を飢えて餓かよ(なり)」

「多く採りすぎず」

「取りすぎませず」

「多」は△1点

c. 「少くす」か「少くす」。少(採)れば則ち蜂情にて作(す)の要素...2点

※ 「採りのが少なすぎない」ようにの要素...1点

「蜂を怠けさせない」ようにの要素...1点

※ 「控之ぬ過ぎて蜂を怠けさせたりせず」

「取りのが少な過ぎて蜂を怠けさせたりせず」

「取りのが少な過ぎて蜂が蜜を作らなくならぬ」ように」

「少く取りすぎず」

「少なすぎませず」

「多」は△1点

d. 文末の「～ということ」の有無は不問。

問六 玉台をとげのある枝で刺して、蜂の玉の子蜂を採らせ子に至っては、

思ひやりのないことこの上ないことである。

c 「玉の台を刺して」の訳...2点

※ 何で刺すかの補いを1点とする。

※ 「玉台をとげのある枝で刺して」

「女王蜂の房をいぼの枝で刺して」

「巣の中の玉台をとげのある枝で刺して」

「巣の中の女王蜂を育てる房をとげで刺して」

※ 「玉台を刺して」

「女王蜂の房を刺して」

「巣の中の房を刺して」

「多」○2点

「多」△1点

b. 「其の息を絶たしむるに至りては」の訳 --- 2点

※ 「蜂の王の子孫を絶たせしむるに至りては」 } ねこのこと
「女王蜂の子孫を絶たせしむるに至りては」 }
「女王蜂の子の命を奪うに及んでば」 }
「女王蜂の子を殺すに至りては」 }

※ 「女王蜂の命を絶たせしむる」は × 1点

※ 「その命を絶たせしむる」も × 1点

※ 「その息の根を絶たせしむる」も × 1点

c. 「不仁の甚しきものなり」の訳 --- 3点

※ 「不仁」の末は △ 1点

※ 「思ひやりなるといふことよ上なり」ことばあり } ねこのこと

「思ひやりなるといふことよ上なり」ことばあり }
「慈愛の心なるといふことよ上なり」 }

※ 「とどく仁徳のなに行いてあり」 } ねこのこと

「とどく仁」に欠け子行為であり }

※ 文末に「〜ということ」の用に説明型=しているものは △ 1点

問七 蜂の王が毒針もなく集団を服従させたり、

a. z

王の子が次の王となったリ、

b. z

王のいる集団は人を襲わなかったリ、

c. z

適切な蜂蜜の採取が蜂の働きを管理できたりする点から、

d. z

武力でない徳治也、

a'. z

天子の世襲と身分の安定、

b'. z

税制の緩和、法令の施行、

c'. z

十分の一の適切な税制など、

d'. z

人間の社会・政治の理想に似かよっている点に

e z

好感を抱いている。

(20点)

f z

※ a~fの各和インメントと内容の正否、過不足により△-1、×-2に。

※ a→a', b→b', c→c', d→d'のような順でもよい。専断として

ありが、位置は不問。

※ 原則的には、ゆりぬの採点で。

a, 「玉毒無し」なので「其の衆を服せし」ぬている点……2点

※ 「蜂の玉が」毒針もなく集団を服従させている」

「女玉蜂が毒も少なく統制している」

「女玉蜂が毒も持たず、他の蜂と従え」

※ 「女玉蜂(蜂の玉)が」

「毒(針)もないのに」

「集団(群)と従えている」

b, 「玉の子登く復の玉と為」る点……2点

※ 「教とくに其の族を分け」る点も不要。あつても減点はしない。

※ 「玉の子が」次の玉となる」

「玉の子が」また玉になる」

「女玉蜂の子が」次の玉に継ぐ」

c, 「其の玉の在る所、蜂も敢て整さず」である点……2点

※ 「其の玉を失へば」且り乱して響通すからず」は不要。あつても減点はしない。

※ 「玉のいる集団は人を整わぬ」

「玉のいる集団の蜂は人を整わぬ」

※ 「玉が」いる集団は現律と守る」

「玉のいる群れは現律が」とゆっている」

d, 「其の之を取りに当たると得が」(問五)の要事……2点

※ 「凡れ其の窟を取ると多くあるからず」多ければ則ち蜂既取て蕃ならず、

又少くするからず、少ければ則ち蜂停して居す」に相当。

※ 「適切な蜂蜜の採取」の要素……1点 }とす。 }とす。

「蜂の御まを管理できる」の要素……1点

2. 「徳を以て王たる者のごとき」の要素……2点

- ※ 「武力でない徳治」 }など〇
- 「徳治政治のよびぬ子」
- 「人(臣)の徳が民を感化する子」
- 「徳によって政治をする者」

6. 「一姓一君にして」の要素……1点 }とす。 }とす。

「上下に定分存る者のごとき」の要素……1点

- ※ 「天子の世襲」 }など〇
- 「世襲制」
- 「王の子が代を承ける子」
- 「一つの王朝は一つの姓でぬ子」
- ※ 「身分の安定」 }など〇
- 「定まった身分制体系」
- 「君臣の身分のわきまをえ」
- 「身分がはきりしてゐる子」
- 「身分がつかれてゐる子」

7. 「法令の明くかゝる子ものごとき」の要素……2点

- ※ 「強制のとつた法令の施行」 }など〇
- 「法令がきびく人と行われぬ子」
- 「法によつてよく治まつてゐる子」
- ※ 「君主の權威がよく行き届いてゐる」など〇

8. 「十一年にして税するがごとき」の要素……2点

- ※ 「十一年の一年については解かれてゐなくてもよい」
- ※ 「十一年の一年の適切な税制」 }など〇
- 「適切な税制」
- 「適切な税におよび民の生産力の管理」
- 「ほかにい税のかけ方」

e. 弊の世界のえ〜dが、人間の世界のえ〜dのように「似かよっている」

「通ずるものがある」という説明 ----- 2点

※「人間の社会・政治、理想の理想に似かよっている」 } 7点

「人間の世界の理想的な姿に似かよっている」 } 7点

※「人間の世界に道がえもがある、だから」 ----- 1点

f. eでえ子のえ「愛す」という愛想 ----- 2点

※「好感を抱いている」

「好ましく思っている」 } 7点

「愛している」

「感じている」